

日本とハンガリーとの共同声明 21世紀における新たなパートナーシップ

オルバーン・ヴィクトル・ハンガリー首相は、日本政府の招待により、2013年11月20日から23日まで公式実務訪問賓客として日本を訪問した。安倍晋三日本国内閣総理大臣とオルバーン・ヴィクトル首相は、2013年11月21日に会談を行い、以下の声明を発出した。

1 世界の中の日・ハンガリー協力

日本側は、ハンガリーがその歴史において自由と民主主義のために立ち上がり、冷戦末期に大きな役割を果たしてきたことを想起し、ハンガリーが、欧州連合（EU）の一員として、欧州及び国際社会の安定と繁栄のために積極的に貢献していることに敬意を表した。

ハンガリー側は、日本が、アジアで最初の民主国家の一つとして、60年にわたって平和主義を貫き、経済発展を成し遂げ、国際社会の信頼を得て、世界経済をリードする国のひとつとなったことを賞賛した。この点、日本は、地域及び世界の平和と安定に対して、これまで以上に積極的に貢献していく決意を強調した。ハンガリーは日本が地域や世界の平和と安全に貢献するとの展望を歓迎した。

これらの背景を踏まえ、双方は、日本とハンガリーの現在の繁栄の根底に共通するものとして、歴史の荒波を経て、自らの手で勝ち得た民主主義、法の支配、市場経済といった普遍的価値が存在することを確信した。双方は、普遍的価値により結ばれたグローバル・パートナーとして、国際社会の安定と繁栄のため、協力していくことで一致した。

これらの共通認識を踏まえて双方は、2013年6月のワルシャワでの日・ハンガリー首脳会談、2013年8月の岸田文雄日本国外務大臣のハンガリー訪問及び今回のオルバーン首相の訪日により、このパートナーシップが、21世紀に相応しい新たな段階に入ったことを表明した。双方は、以下の具体的な分野で協力を進めることにより、このパートナーシップを更に強化していくことで一致した。

2. 二国間の協力強化

互いの地域に対するコミットメント

日本側は、「東方開放政策」と名付けられた外交方針の下、ハンガリーがアジ

ア諸国との関係を促進していることを歓迎し、ハンガリーが、アジアと欧州との架け橋の役割を担うことに対して期待を表明した。

ハンガリーが現在ヴィシェグラード4か国（V4）の議長国を務めていることを踏まえ、双方は、過去10年にわたり、日・ハンガリーの両国関係とともにV4と日本との協力の枠組みがハイレベルの会談、対話やセミナー等を通じ着実に進んでいることを確認するとともに、日本側は、ハンガリー議長国のリーダーシップの下に、「V4＋日本」協力が更に発展することに期待を表明した。

双方は、ODAの分野において、東方パートナーシップ対象国及び西バルカン諸国での民主主義や市場経済化の促進につながる開発協力の重要性を再確認し、同分野での知見と経験の共有を引き続き図る意図を表明した。

これに関連し、双方は、東方パートナーシップ対象国及び西バルカン諸国において、V4及び日本が共同のプロジェクトの開始を決定したことを歓迎するとともに、これが「V4＋日本」のみならず日・ハンガリーの両国関係の著しい強化にもつながったという事実を歓迎した。

また、科学技術分野においても、「V4＋日本」の枠組みで、双方が日本とV4との間の協力の可能性を追求するために更なる措置をとることを再確認した。

両首脳は、2014年「V4＋日本」交流年の開始は、「V4＋日本」協力で新たな弾みを与えるものとして歓迎した。

さらに、双方は、中・東欧諸国の民主社会への移行に重要な役割を果たしてきた中・東欧地域環境センター（REC）を通じて、より効果的かつ効率的なエネルギーの使用を含め、環境分野で協力を継続していくことを再確認した。

経済交流の更なる促進

日本側は、大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略の「3本の矢」による経済政策を説明すると共に、日本経済の再生を通じて世界経済に貢献していく意図を表明した。双方は、経済及び商業関係の重要性を確認し、日本企業によるハンガリーへの投資が両国経済に良い影響を与えていることを強調した。

また、ハンガリー側は、財政均衡と債務削減のために講じられたハンガリー政府の具体策が成果を出していることを説明した。日本側は、ハンガリー経済

を安定させるこれらの取組を歓迎し、これがハンガリーの日系企業の活動も後押しすることに期待を表明した。

これに関連し、双方は、２０１３年８月に岸田文雄日本国外務大臣及びマルトニ・ヤーノシュ・ハンガリー外務大臣との間で日・ハンガリー社会保障協定が署名されたことを歓迎した。

双方は、日本貿易振興機構（ＪＥＴＲＯ）とハンガリー投資貿易庁（ＨＩＴＡ）との間で覚書が締結されたことを歓迎した。

さらに、双方は、これまでの良好な協力の結果や２０１３年１０月にブダペストで開催された日・ハンガリー・エネルギーセミナーでの議論を想起し、エネルギー分野において、革新的な技術の発展に特別の注意を払い、協力を強化する意思を表明した。これに関連して、日本国経済産業省及びハンガリー国家開発省との間で、エネルギー分野における協力覚書が署名されたことを歓迎した。

未来を築く若い世代の交流

双方は、両国の国民が、文化と伝統に根ざして友好の絆を培ってきたことに留意し、この友好の絆を若い世代が発展させていくことが、日ハンガリー関係の未来にとって不可欠であることを認識した。

これに関連し、双方は、日本とハンガリーとの間で、相互の国へ渡航する日本及びハンガリーの若者に、互いの国において、休暇の付随的な活動として就労する機会を与えるワーキング・ホリデー制度を早期に導入することにより、両国間の若者の交流を促進させることを希望する旨表明した。

また、日本側は、日本人学生１００名に対する新たな奨学金を創設するとのハンガリー政府のプログラムを歓迎した。ハンガリー政府奨学金プログラムの詳細については、日本国文部科学省及びハンガリー人材省により署名された覚書において確定された。

さらに双方は、２０２０年東京オリンピック・パラリンピック大会の開催が決定したことを歓迎し、この機会にスポーツを通じた人的交流が更に深化することに期待を表明した。

３．日・ＥＵ関係

双方は、深くかつ包括的な日ＥＵ経済連携協定（ＥＰＡ）／自由貿易協定（Ｆ

ＴＡ）が、バランスのとれた形で、日本及びハンガリーを含むＥＵ加盟国の市場アクセスを実質的に改善すべきであり、双方の経済関係を強化すべきである旨再確認した。双方は、日ＥＵ・ＥＰＡ／ＦＴＡが経済成長及び雇用創出に貢献することを認識しつつ、可能な限り早期の締結に向け努力することにコミットした。

双方は、日ＥＵ戦略パートナーシップ協定（ＳＰＡ）の包括的な基礎に基づく未来志向な文書としての重要性を確認し、この協定が基本的価値と原則を共有するグローバル・パートナーとしての日ＥＵ関係を適切に反映させるべきとの願望を表明した。

４．国際社会における協力

日本側は、ハンガリーが、２０１２年のサイバー空間に関するブダペスト会議や２０１３年のブダペスト水サミットを主催したことに見られるように、国際社会においてグローバルな課題に積極的に取り組んでいる姿勢を高く評価した。双方は、これらの新しい課題に対してそれぞれの知識と経験を活かし協力することを決意した。

双方は、東アジアと欧州の安全保障環境は、緊密に相互連関していることを確認した。また、双方は、１９８２年の国連海洋法条約を含む国際的に認められた国際法の原則を重視することが重要であることにつき再確認した。双方は、平和と安定を維持するために、武器、汎用品及び技術の効果的な輸出管理を維持する重要性を確認した。

双方は、北朝鮮によるウラン濃縮活動を含む核・ミサイル開発計画の継続に対して重大な懸念を改めて表明した。双方は、北朝鮮に対し、非核化に向けた具体的行動をとるとともに、関連の国連安全保障理事会決議及び２００５年の六者会合共同声明を完全に遵守するように強く求めた。また、双方は、北朝鮮に対し、拉致問題を含む、国際社会が有する人権上の懸念に遅滞なく取り組むよう強く求めた。

双方は、安保理改革を重視しつつ、全ての側面での国連改革の重要性を改めて確認した。双方は、２０１５年に国連創設７０周年を迎えることを踏まえ、今日の国際社会の現実を反映するために、実効性、透明性及び代表性を改善する必要性を改めて強調した。この点について、双方は、安保理常任理事国及び非常任理事国の双方の議席の拡大を含む安保理改革実現に向けて協働する意志を改めて表明した。この文脈において、ハンガリー側は、日本の国連安保理非

常任理事国入りへの支持を改めて表明した。

双方は、ミレニアム開発目標の達成に向けた取組を加速するというコミットメントを再確認した。また、双方は、効果的なポスト2015年開発アジェンダが人間の安全保障を指導理念として策定され、女性の能力強化、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、災害リスク削減等を含む必要があるとの認識を共有した。また、双方は、ポスト2015年開発アジェンダの水関連の目標の重要性で一致した。

2013年11月21日、東京において

日本国内閣総理大臣
安倍 晋三

ハンガリー首相
オルバーン・ヴィクトル